

明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会 第1回 里地里山保全利活用専門部会  
議事要旨

1 開催日時：平成30年6月18日（月）15:00～17:00

2 開催場所：緑農会館

3 出席者：〔座長〕佐倉特任教授

〔部会員〕立川委員、野島委員、越畑委員、梅沢委員、石井委員、米津委員、永江委員、地引委員（石黒代理）、古山委員（小川代理）、山中委員、伊藤委員、

〔事務局〕建設緑政局緑政部みどりの協働推進課：今井担当課長、緒方担当係長、遠藤主任

麻生区企画課：大條担当

コンサルタント（（株）UR リンケージ 遠藤、牧野、岸本、會田）

#### 4 議事〈主な意見〉

##### （1）これまでの成果

###### 1）地元が中心となった多様な取り組みの展開による地域活性化

- ① 収穫祭の野菜の直売が活性化に寄与している。
- ② 緑と道の美術展は年々地域で定着してきた。

###### 2）協議会による大学と地域連携の実現

- ① 協議会の取り組みは、大学と地域連携の良い事例となっている。

###### 3）意義のある活動の実現

- ① 里地里山部会の取組みは地味だが、とても内容が濃く、進化している。

##### （2）今後の課題

###### 〈全体にかかるもの〉

###### 1）重複しているイベントの集約化

- ① 野外活動センターやセレサモス等と連携し、重複しているイベントは集約が必要。

###### 2）会議などによる農家の負担の増大

- ① 会議やイベント等が増えることで、地元の負担が増えている。
- ② 黒川の活性化のためには、地元も一定の負担は必要。

###### 3）より効果的な推進体制の構築

- ① 里地里山部会と地域活性化部会を統合化すると、より効果的に取り組めないか。
- ② 3つの専門部会の柱は残しつつも、具体的な取り組みはまとめてはどうか。
- ③ できるものがあれば、部会や取り組みを統合してよい。

###### 〈農業・地域活性化にかかるもの〉

###### 1）農家の高齢化と後継者不足

- ① 担い手の高齢化と後継者不足が問題である。

###### 2）アスパラガスによる黒川の農業活性化

- ① 地元の生産性の向上のための技術指導や所得を上げていくことが必要。

- ② アスパラガスの売れ残り・値下がりが心配。

### 3) ITを活用したルート案内

- ① 美術展で、スマートフォンを使ったルート案内が出来ないか。

#### 《里地里山専門部会にかかるもの》

#### 1) 里山保全に関する大学連携の拡充

- ① 里地里山部会でも、大学と連携した取り組みを進められると良い。
- ② 大学組織よりも、個々の先生と関係性を作りながら取り組めるとよい。

#### 2) PR手法や参加者など募集の工夫

- ① 里地里山部会の活動は意義あるものだが、アピール力が弱い。連続的なストーリー性が必要。
- ② PR手法や参加者など募集の工夫が必要。
- ③ 農業振興課のメルマガがあるので、市域全域に広報ができる。
- ④ 同じ日に3部会一緒に開催してはどうか。
- ⑤ 合同のイベントは参加者の負担も大きいことや、イメージがわからない。

#### 3) 黒川の活動団体や地域の人たちが気軽に使える拠点施設の設置

- ① 竹行燈の会のメンバーが集まって作業できる場や、展示や販売が出来る場がほしい。
- ② 地域の人や色々なグループの人が使える場所があるとよい。
- ③ 大規模な施設よりも、既存施設を活かした拠点づくりができるとうよい。
- ④ 農業振興地域の中に拠点施設を建設することは難しい。
- ⑤ 拠点施設として空き家などを使えると良い。
- ⑥ 公園内に作業場を設けられないか。
- ⑦ 拠点施設について、民間企業とのマッチングの可能性も検討できると良い。

#### 4) 黒川地域全体における植生のあり方の明確化

- ① 地域全体として植生方向性を決めてもらいたい。植生を研究している教授に関わってもらってはどうか。
- ② 公園協会のボランティア講座では萌芽更新している。
- ③ 本来はシラカシが多く自生する土地だが、クヌギやナラを植えてもらっている。
- ④ 目標植生や管理計画に対し、現実的に各団体等がやれる方法をすりあわせながら取り組む必要がある。
- ⑤ 各団体の取り組みを共有することからできると良い。

### (3) 具体的取り組みにおける今後の課題と平成30年度の実施計画について

#### 1) 里1：竹あんどんづくり

##### 《成果》

- ① 竹行燈は、地域に広がっていることが素晴らしい。

##### 《今後の課題や方向性》

- ① 竹を加工する技術が上がってきたので、竹行燈の他にも製作できそうだ。

##### 《H30年度の実施計画》

- ① 参加者が増えても対応できるので、対象者を小学校の中学年だけでなく、高学年にも広げ

て募集できると良い。

## 2) 里2：里山保全活動体験

### 《成果》

- ① 笹刈は意味のある取組である。

### 《今後の課題や方向性》

- ① 黒川の特別緑地保全地区の管理で、市民や企業等のボランティアを活用した管理を実施できるとよい。
- ② 笹刈に参加する人を増やしたい。

### 《H30年度の実施計画》

- ① 募集方法など広報を充実

## (4) その他

- ① 写真の更新をしてほしい。

## 5 まとめ

- ① 保全イベントについては募集方法など広報を充実させること、竹行燈づくりについては対象者の年齢の検討を行っていく。

以上